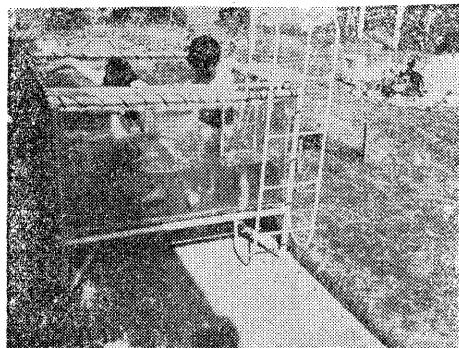


遊具の四季について

斎藤公子

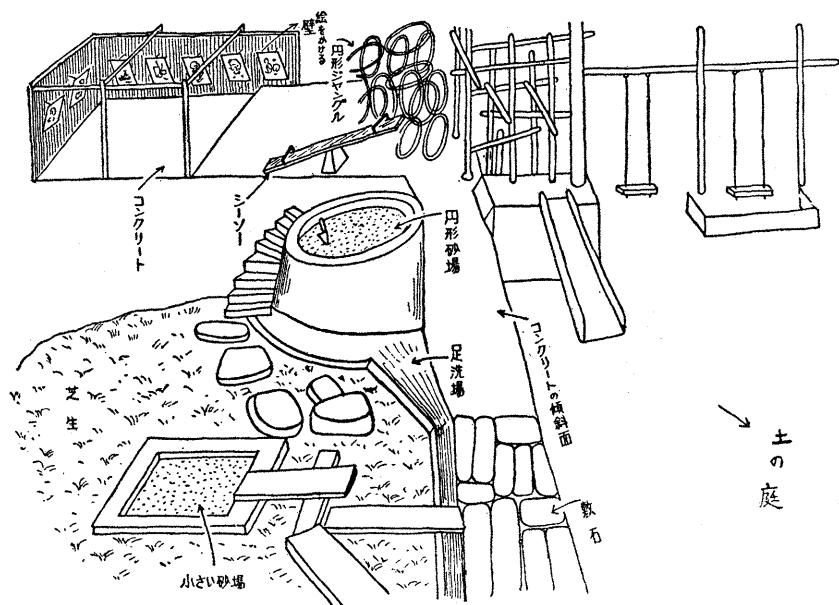


遊具の四季という題をいただいて、実のところたいへん困りました。もっとも夏には水槽など季節独特のものがあるわけですが、(現在園にあります水槽の写真をお目にかけます。これも以前八月号で紹介した丸いジャングルの作者由良玲吉氏の作で、ジャングルと一緒に七、八年前伊勢丹で開かれた仲間の展覧会に出品して、たいへん好評を得たものです。これは四尺四方の小さいものですが、季節を過ぎた後は中のビニールの袋を取りはずしたままおいておきますと、結構小さい梯子を上り下りしたり、ふち

た。もっとも夏には水槽など季節独特のものがあるわけですが、(現在園にあります水槽の写真をお目にかけます。これも以前八月号で紹介した丸いジャングルの作者由良玲吉氏の作で、ジャングルと一緒に七、八年前伊勢丹で開かれた仲間の展覧会に出品して、たいへん好評を得たものです。これは四尺四方の小さいものですが、季節を過ぎた後は中のビニールの袋を取りはずしたままおいておきますと、結構小さい梯子を上り下りしたり、ふち

の鉄柵にぶらさがってひっくり返ったり、日だまりで良い遊具になっています)しかし現在ある遊具は大体四季を通して使われるようですが、現実に貧乏な、しかも狭い園で、まだまだそこまでは今のところ考える余裕がなかったのですが、この際改めて子どもの四季の遊びを考え直してみているわけです。

で、ここでちょっと、遊具というこまかい一つ一つに入つてゆく前に申し上げておきたいことがあるのです。それは五年前のことです。初めて深谷にきて、おとなのが背が埋まる程の夏草を刈つて庭として、砂をトラック一台運んで一隅においてただで幼稚園をはじめ、さてこれからどんな遊具を作つていこうかと、デザインを仲間の秋岡芳夫氏に依頼しました。すると現場を見ないと設計は出来ないといって、カメラマンを連れてきてくれました。そして半日じつと子どもたちの遊びや動きを、ただみておりました。それから私に、「この庭は外に向かってだんだん低くなっている。どうも子どもた



ちがこの広い庭を思う存分遊んでいないで、直ぐ部屋に帰ってきてしまう。なぜか考えてみたらこの庭の傾斜によるのだということがわかった。この庭をたのしく遊べるようにするためには土を入れて高低をつけなくてはいけない」と、いって屋根に登って写真をとり、その写真を引き伸した上に上の図のような、庭の一隅の設計をしてくれたのです。私はこのことにたいへん感動し、いい勉強になりました。そういえば私の幼児期はもっぱら家の裏の小山にいて、足をかける穴を段々に掘って、上から綱をぶらさげて、つたわって登ってはすべり落ちるという遊びで終日をすごしていた記憶があります。いつもパンツを赤土だらけにしてきても少しもおこらず洗ってくれた母のいたことは、今から考えると何とありがたいことだったでしょうか。今でも私は広い庭に山がいくつもあって子どもたちがくぐれるようなトンネルがあいていて、それが迷路のようにくねくねと、あちこちにあいていたらどんなに一日たのしく遊べるかななどと、夢をえがいているのですが。

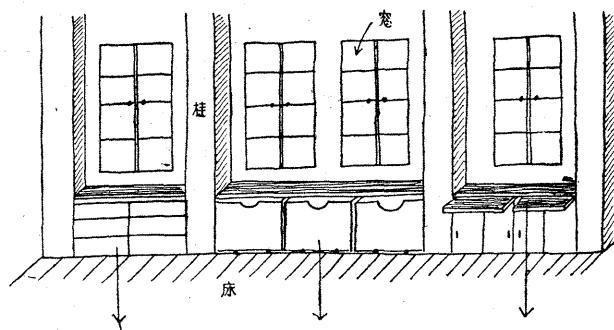
せっかく六百坪の土地に図のような設計をしてもらいましたが、事情で現在の狭い土地（約百八十坪）に移転しましたので今だ実現出来ずになりますが、いつかは庭全体を立体的な構成にしてみたいと考えています。図の説明をもう少し詳しくしますと、庭の一一番向こう側はやや高めのコンクリート台にして、向こうの堀の壁は思う

存分絵のかける壁面とし、左きわは屋外劇場になります。右のジャングルは木のぼりのたのしさの再現です。そのコンクリート台からは、なだらかなすべり台で下の庭におりて来るようになっています。庭の右手にある円型の高い砂場は、ぐるぐるまわりの階段でのぼってゆくようになっていて、水を使って遊んでも水はけがよいように出来ています。砂場の下は足あらいが自然に出来るようになっています。四角の小さい低い砂場は年少組のためのものです。

冬になりますと、天候にめぐまれた日などは、元気な子どもたちはすぐに庭に飛び出しますが、しかしながらいつも室内で遊ぶ時の方が多くなってしまいます。それで室内での遊びに変化をつけ、もつとたのしいものにするために私が東京におりました時に考えて、やはり仲間の松本文郎氏によってもらいましたもの二・三、もう七・八年も前のことになりますので新しいことではないかもしませんが、御紹介してみます。

だだっ広いホールにあるものは大型の積木だけであった時、何とか無駄な窓下の壁面を利用してみたいと思って、次の図のような工夫をしてみました。

男の子たちは大きな箱積木をどうしても部屋一杯広げて遊びはじ
また移動図書棚も一間ぐらいの大きいものを作つてみました。やは
り材料はラワンを使いました。



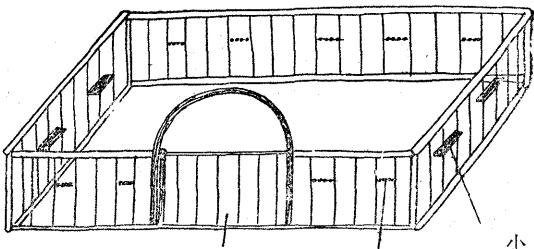
壁面がひろがったのでいろいろな戸棚や引き出しに仕切り利用しました。

材料は全部ラワン
この板は出し入れがきくようつていて絵をかくとき、粘土のときなど利用します。すっかり引き出しまえますから洗うことも出来ます。

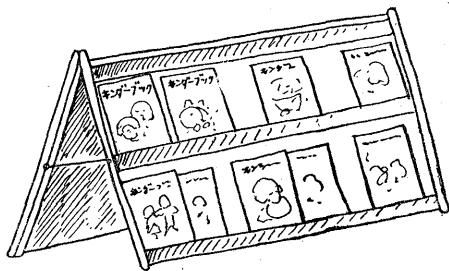
小さい棚になつてゐる。

五色の玉が鉄棒に通してあつて動かせる。

この門はあけたり閉めたり出来るよう



めるために、女の子たちが安心して遊べるコーナーが、ついなくなってしまうので考えたのがままごとの棚です。大きさは部屋の大きさによりますが、一間半四方ぐらいの大き

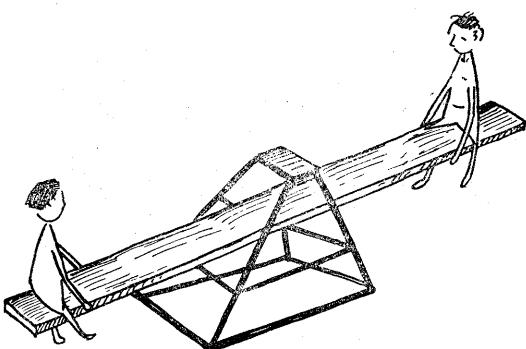


さで四面は組立てるよう、遊び終れば隅に片づけられます。の中に適当に可愛い茶だんす、人形のベット、テーブル、椅子など、揃えて作りましたら、何とたのしそうにままごとをして遊んだことでしょう。この中だけは安全地帯で、小さい子どもも安心して遊びました。

この他積木遊びを複雑にして喜ばれたものに、秋岡芳夫氏考案の、三角の梯子状の踏台というのでしょうか、図のようなものがあります。

これを二個以上作って

おき、これに長くて厚い板が二三枚以上あると、これまたたいへん子どもの遊びを発展させてくれました。



中に板を通して、ギッコソ、バッタンにしてみたり、一番上に並べて橋にしたり、これがままごとで階段になつたり、たのしいもの

です。

この他今使つて喜ばれているものに風間靖子氏製作のロッカーがあります。

二・三人一しょに乗つて船のよ
うに左右にこいで遊んだり、ひつ
くりかえして寝台に使つたり、縋
どももいます。

にして動物のおりにして入つて喜
んでいます。布團を敷いて人形を
寝かせ、ゆりかごに使つている子

それからあまり成功した作品と

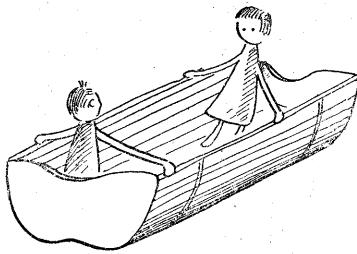
いうわけにはゆきませんが、大き
な組木と申しましようか直径七、

八センチの球の六方に穴があいて
いて長さ四十センチぐらいの棒を

通していろいろな形を構成して遊
ぶ遊具ですが、穴と棒の差し込み

の細くなっているところの関係が

ぴったりとゆかず、きつ過ぎてた



銀ねずみ色



赤い色

☆

☆



(埼玉・さくら幼稚園)

たいて入れなくてはならなかつたり、ゆるすぎて抜けてしまつたり、こうした不愉快さをなくせば子どもたちはたいへん興味を示したのですが、このような完成をはばむじれつたさが、時折、先に球をつけた棒をチャンバラのよい材料にしてしまつたのには笑つてしましました。このことによつても子どもたちがたのしんで何かをつくつて遊んでいる時は戦争ごっこにならないということを考えさせられました。

それで私共の園では三才児から六才児に至るまで冬の日の日だまりの廊下で大きな木ぎれを切つたり釘を打ちつけたりして、自動車や船などつくつてほとんど半日をすごすおとなが使う大きなのこぎり、金づちが一番好まれる遊具といえるのではないかなどとも考えてしまします。